

水土里ネットの和

発行：水土里ネット和歌山（和歌山県土連） 和歌山市雑賀屋町1番地
会長：二階俊博 TEL：073-432-2567 FAX：073-433-1490



土地改良総合整備事業 魚谷地区(紀の川市) 区画整理28ha

主な内容 (CONTENTS)

○新年のご挨拶	2
二階俊博水土里ネット和歌山会長（全国水土里ネット会長）	
進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問	
宮崎雅夫全国水土里ネット会長会議顧問	
○近畿水土里ネット連合協議会事務責任者会議(奈良県)	5
○農業用ため池の管理及び保全に係るパトロール業務について	5
○農業農村整備に関する意見交換会について	6
○令和2年度土地改良技術実践向上研修	6
○令和2年度全国農業農村整備の集い（11月）	7
○令和3年度農業農村整備予算の確保に向けた提案活動	8
○大畑才蔵翁没後300年記念フォーラムの開催について	9
○令和2年度第2回監事会及び理事会の開催について	10
○農業農村整備事業令和3年度当初予算、令和2年度補正予算が閣議決定	10
○和歌山県ため池サポートセンターの取り組みについて	11
○水土里ネット和歌山からのお知らせ	12

新年のご挨拶



新年にあたって

水土里ネット和歌山
和歌山県土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊 博

令和3年の年頭に当たり、本県の土地改良に携わる皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。昨年は、新型コロナウイルスが世界各国で感染拡大し、新しい生活様式、新しい仕事の仕方が求められる等、これまで経験したことのない1年となりました。

また、7月の豪雨や台風による暴風雨により、全国で多くの被害が発生しました。お亡くなりになられた方々の御冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災された多くの皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

被災された方々の生活を一刻も早く回復していくためには、被害を受けた農地や農業用施設の復旧・復興が第一に重要であり、日頃から土地改良に携わる皆様方には、全国各地で復旧・復興の先頭に立っていただいていることについて、心から敬意を表します。

全国で32ヶ所のため池が決壊した「平成30年7月豪雨」を契機として、全国のため池の関係者の方々から、ため池の防災工事を推進するための財政的・技術的な支援を求める声が高まり、昨年6月、ため池に関する特別措置法が議員立法として成立致しました。この議員立法の成立には、多くの国会議員の皆様の御尽力を頂きましたが、中でも進藤金日子・宮崎雅夫両参議院議員には、法案の検討段階から中心となって御活躍頂きました。土地改良関係者が一丸となって、全力で対応した結果であったと思います。心から厚く御礼を申し上げます。

さて私は、全国水土里ネットの会長に就任して以来、「闘う土地改良」を掲げて参りました。そして組織一丸となって闘った結果、補正予算などを含めまして、大幅削減前を大幅に上回る予算を確保することが出来ました。

令和3年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案においては、4,445億円を確保することができました。さらに、令和2年度の補正予算を含めると6,300億円となります。また、防災・減災の為に国土強靱化対策が延長され、新たな5ヶ年加速化対策として、15兆円が予算化されることとなりました。

皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

いま、本県の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。一方で、農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。また、近年、自然災害が大規模化、多発化する傾向にあり、農地・農業用施設でも大変大きな被害が続いています。これらの農業農村の危機的な事態に鑑み、昨年3月に新しい「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定され、農業者はもとより国民の皆様方に農業・農村の現状、課題を理解いただき、食糧供給や国土保全などの多面的な役割を果たす農業・農村は「国の礎」との認識を分かち合い、国民全体で農業、農村を次の世代につないでいくこととされました。

私たち土地改良担当者としましては、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く皆様方にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、新型コロナウイルスの不安が払拭され、本年が本県の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

参議院議員 進藤金日子

新年明けましておめでとうございます。和歌山県の皆様には、昨年の「進藤金日子と農山漁村を考える会」等の政経セミナーへのご協力をはじめ、日頃から大変お世話になり、新年を迎えるに当たり衷心より感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でした。昨年、新年を迎えた時には、まさかこのような事態に陥るとは誰もが想像だにしていなかったと思います。まずは、このコロナ禍を国民一体となって乗り越え、克服することが最重要課題です。

さて、令和2年度第3次補正予算と令和3年度予算の政府案が閣議決定されました。まずは、3か年緊急対策に引き続き「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が事業規模15兆円程度で実施されることになりました。土地改良予算に関しては、令和3年度に執行可能な予算として全国各地域の要請に基づき、補正と当初を合わせて6,300億円確保できました。

令和2年度第3次補正予算は1,855億円であり、「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく施策の実施関連で700億円、防災・減災、国土強靱化と災害復旧の推進関連で1,155億円計上されています。また、令和3年度予算は4,445億円であり、食料安全保障の確立と国土保全等を図ることが明確化され、収益性・防災性の向上に資する農地の大区画化、水田の畑地化・汎用化、農業水利施設の維持・保全等を実施する土地改良事業を重点的に推進することとしています。

また、防災・減災、国土強靱化の推進に関連して、激甚化する災害に備えるため、ため池や農業水利施設の整備を推進することとしています。更にポストコロナを見据えた農村の定住条件を整備する農村整備事業も盛り込まれています。これら予算案については、通常国会で審議されますが、まずは令和2年度第3次補正予算の早期成立に向けて全力を尽くし、令和3年度予算の年度内成立に向けて努力して参る所存です。

昨年は、宮崎雅夫参議院議員と連携して一定の成果を出すことが出来ました。「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」の議員立法による制定、自民党農村基盤整備議員連盟（二階俊博会長）として「農業農村の振興を先導する土地改良」（全国事例集）の発刊できたこと、自民党女性局機関誌の「りぶる」での土地改良特集の実施などが挙げられます。加えて、土地改良関係者をはじめ多くの方々から様々なご意見をお聴きし、こうした声を国会質問に反映したり、自民党部会等で発言したり、農水省に直接伝えることなどにより、課題解決の一助となった例も多くなってきました。引き続き緊張感を持って農業・農村の振興に向け、しっかりと活動を進めて参る所存です。

和歌山県の皆様にとって本年が素晴らしい年でありますよう祈念いたしますとともに、更なるご指導とご支援をお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。



令和3年の新年のご挨拶

参議院議員 宮崎 雅夫

新年明けましておめでとうございます。謹んで初春のお慶びを申し上げ、本年が和歌山県の土地改良関係の皆さまにとってより佳い一年となりますよう心からお祈りいたします。

皆さまにおかれましては、平素より土地改良の推進、農業農村の活性化にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、私の国政活動にご支援を賜り心より感謝申し上げます。

さて、昨年新型コロナウイルス感染症や豪雨災害など、例年にも増して農業農村は厳しい状況に見舞われ、これらの影響や被害を受けられた皆さまには衷心よりお見舞い申し上げますとともに、速やかに元の生活や生産活動に戻り、さらにはより一層安全安心な状態が作られるよう私も最大限の努力をしてまいり所存です。

近年の自然災害の頻発化、激甚化による全国各地からのご要望を踏まえ、進藤金日子参議院議員と二人で主体的に取り組んだ議員立法「防災重点農業用ため池の対策工事等の推進に向けた特別措置法」が昨年の通常国会で成立し、ため池対策の新たな法的な枠組みを作ることができました。これを踏まえて11月には農林水産大臣、総務大臣、防災担当大臣の3大臣会合が開催され、防災重点ため池の整備促進のための地方財政措置を拡充する方向での検討が始まるなど、具体的な対応が進んでいます。国土強靱化対策もこれまでの3ヵ年緊急対策に続いて新たに5ヵ年の加速化対策が始まることとなり、ため池対策も含め農村の安全安心に向けた土地改良の推進のため、引き続き努力してまいります。

また、昨年は、コロナ禍の中、農業農村の魅力が再認識され、初めて東京からの転出超過となるなど、都市から農村への人の流れが生まれつつあります。この流れをとらえ、農村の活性化を図るための農村インフラの持続性の確保や情報通信環境整備など、農村整備にも改めて取り組んでいかなければなりません。

そして、新型コロナウイルスによる国民食料供給への影響は、幸いにも深刻な事態となりませんでした。全世界的な気候変動なども踏まえれば、食料の多くを海外に依存している我が国にとって、食料安全保障は大変重要な課題であり、食料生産に必要な重要な要素である農地や農業水利施設を、防災・減災の観点のみならず、次世代にしっかりと引き継いでいかなければなりません。これからも進藤議員とともに、これらを守り、更に発展させていくため、必要な予算を安定的に確保し、土地改良事業を計画的に進めていけるよう、皆さま方からご指導をいただきながら努力していきたいと考えています。

結びに、和歌山県の皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念いたしますと共に、今年もご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年の挨拶といたします。

近畿水土里ネット連合協議会事務責任者会議

令和2年10月22日（木）、奈良県橿原市のTHE KASHIHARA（ホテル）にて、令和2年度近畿水土里ネット連合協議会 事務責任者・事務局長合同会議が開催されました。当会からは、高瀬常務理事と松尾事務局長が出席しました。

担当の水土里ネット奈良からは、9月24日に札幌市で行われたブロック代表事務責任者会議での協議内容の報告があり、今回出席の全国水土里ネットの室本専務理事からは、全土連賦課金についての説明がなされ、各水土里ネットからは活発な意見が出されました。

全土連賦課金の見直しについては、年内に近畿ブロックとしての意見を集約し、全土連に報告することになっています。

コロナ禍の元、具体的な取り組みが困難になってはいますが、できる限り広報等取り組みを進めることを確認したところです。



農業用ため池の管理及び保全に係るパトロール業務について

昨年制定された「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」に基づき、民間所有である特定農業用ため池の管理実態を把握するため、県が発注した「農業用ため池の管理及び保全に係るパトロール業務」を当会が受注しました。

対象は834箇所あり、令和2年度業務では400箇所のため池パトロール調査を行いました。当会職員で有田管内、東牟婁管内を直接調査し、残りの管内については土地改良専門技術者協議会に委託したところです。

小規模なため池や、堤体に灌木が生えているため池など、使われていないため池等もあり、今後のため池対策に必要となる実態把握に大いに役に立ったものと考えられています。

農業農村整備に関する意見交換会について

令和2年11月5日（木）、農林水産省農村振興局の幹部が来県し、令和3年度の概算要求に係る情報提供並びに、畑かん施設を管理する土地改良区の課題やため池保全管理法、特措法に関することをテーマに意見交換が行われました。

和歌山県からは、有田川、名田周辺、川辺町周辺、南紀用水の各土地改良区理事長並びに、紀美野町、紀の川市、橋本市、かつらぎ町、有田川町、御坊市、日高川町、みなべ町、田辺市の担当部課室長が出席し、それぞれが抱える課題について意見交換を行いました。

市町からは小規模なため池整備や管理に係る支援等についての要望が出され、畑かん施設を抱える改良区からは、突発事故対応の要望などが出されました。

農村振興局設計課の川合課長から、意見交換で出た課題について国としての考えを説明戴き、今後検討が必要な事項については、持ち帰って担当課と協議するなど、課題に対して有意義な意見交換となりました。



意見交換会会場



農村振興局幹部の説明

令和2年度土地改良技術実践向上研修



現地での視察



令和2年10月28日（水）、「奈良県北村町地区における地域活性化への取り組みについて」をテーマに土地改良技術実践向上研修を奈良市北村町において行いました。

和歌山県並びに県内土地改良区から15名が参加し、当該地区の北村土地改良区中田理事長から話を聴くと共に、現地において整備されたほ場を見学しました。

当該地区は、ほ場整備だけでなく多面的機能支払いの活動を同時に行い、営農組織の取り組み、また地域課題である里地振興と鳥獣害対策に熱心に取り組んでおり、参加の皆さんからは、日頃の業務に大いに参考となるとの感想が聞かれました。

令和2年度全国農業農村整備の集い（11月）

令和2年11月20日（金）、全国水土里ネットと都道府県水土里ネットの共催による「農業農村整備の集い」が、シェーンバッハ・サボーにて盛大に開催され、コロナ禍の中、国会議員を含め約400名の土地改良関係者が全国から参集しました。

本県からは中山副会長をはじめ18名の会員が参加しました。

二階俊博全土連会長からは、冒頭の挨拶で土地改良は現状に満足せず、更なる前進、高みを目指していくためには「闘う決意」が必要であることを強調されました。

祝辞では、自民党の佐藤勉総務会長、森山裕国会対策委員長、塩屋立農林・食料戦略調査会長、野上農林水産大臣、西川公也内閣官房参与、進藤金日子、宮崎雅夫両参議院議員・都道府県水土里ネット会長会議顧問の順で挨拶し、予算確保や土地改良の推進への尽力を誓ったところです。

要請案文を来年全国土地改良大会の開催を予定している水土里ネット群馬・村上行正常務理事が朗読、これを全会一致で採択しました。

事例発表では、水土里ネット女性の会・萩原丈巳会長（水土里ネットやまなし）が水土里ネット女性の会の設立状況と活動方針を報告、今後も土地改良における女性の活躍を推進していくことを訴えました。最後にガンバロウ三唱で予算確保に向け一致団結することを誓いました。



令和3年度農業農村整備予算の確保に向けた提案活動

令和2年11月20日（金）午前中には、和歌山県ため池保全整備連絡協議会会長で本会理事の日裏町長を筆頭に、農林水産省に対して以下の5項目の提案活動を行いました。特に農村振興局の奥田次長とは面談時間を戴き、和歌山県の提案内容を説明しました。

また、農業農村整備の集い終了後、自民党幹事長室に二階会長を訪ね、鶴保参議院議員も同席の元、国営総合農地防災事業和歌山平野地区の推進並びに当連合会の提案内容について説明を行い、地域の実情などの意見交換を行いました。参加の町長からは、ため池対策や地域産業の振興などの話が出されました。このあと、県選出国會議員への提案活動のため議員会館を回り、提案書を届けたところです。



農水本省 奥田局長室にて



自民党幹事長 応接室にて



要望書を手渡す中山副会

(提案内容)

- 1 農業農村整備事業推進に必要な予算枠の確保
- 2 国営総合農地防災事業 和歌山平野地区の推進並びに国営土地改良事業 南紀用水二期地区の早期事業着手
- 3 日本型直接支払制度の事業推進費を含めた予算の確保、並びに多面的機能支払交付金制度の更なる事務の簡素化を行うこと
- 4 農山漁村振興交付金について、NPO法人等多様な団体が事業実施主体となって、体験、滞在、交流に資する施設の整備等様々な取り組みが実施できるよう制度の拡充を図ること
- 5 ため池の適切な管理や「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」に基づく整備の推進のため、ソフト事業の定額予算の継続及びハード事業に必要な財政上の措置及び地方財政措置への特別な配慮を行うこと

大畑才蔵翁没後300年記念フォーラムの開催について

令和2年12月12日(土)橋本市が主催し、大畑才蔵ネットワーク和歌山他が協力の没後300年記念フォーラムが橋本市産業文化会館「アゼレア」大ホールにて、170名の多く皆さんの参加のもと開催されました。

橋本市平木市長の主催挨拶の後、石田衆議院議員、中西県議会議員から祝辞を戴き、和歌山大学名誉教授の藤本清二郎名誉教授の「日本の農業史と才蔵・弥惣兵衛・吉宗」と題した講演や、才蔵紙芝居、大畑才蔵翁顕彰動画、才蔵ソングの披露があり、水盛台を使った測量体験など、大畑才蔵の偉業をしっかりと学ぶ機会となりました。

大畑才蔵は、将軍徳川吉宗を支えた井澤弥惣兵衛ほど知られていませんが、大畑才蔵が紀州藩で取り組んだ藤崎井用水、小田井用水の開削、亀池の築造など、才蔵の素晴らしい技術が井澤弥惣兵衛に受け継がれ、全国に広まったものと学んだところです。

土地改良区が管理する水路施設の歴史を学ぶ絶好の機会となりました。

なお、当会から国営造成施設管理体制整備推進事業の一環として、紀の川の水に育まれたお米を参加賞として提供させて戴きました。



国営造成施設管理体制整備推進事業の一環として提供されたお米

令和2年度第2回監事会及び理事会の開催について

令和2年度第2回監事会が12月8日（火）に和歌山県土地改良事業団体連合会の役員室にて、第2回理事会が12月14日（月）にルミエール華月殿7F会議室において開催されました。

監事会では、監事全員が出席の下、令和2年度の会計予算の補正について、会計規程等の設定、変更についてを議事として各監事から意見を戴き、また、理事会では16名の理事のうち13名の出席のもと、鶴保会長代行の開会挨拶の後、県の農業農村整備課赤津副課長から令和3年度の土地改良予算の取り組み内容について情報提供戴き、議事では、令和2年度会計の中間執行状況報告並びに会計予算の補正について、また、会計規程等の設定、変更について、個人情報保護規程の設定についてが審議され、すべて承認されました。

会計規程等の設定、変更については、今年度進めている当会会計の複式簿記化に対応した規程の整備となります。

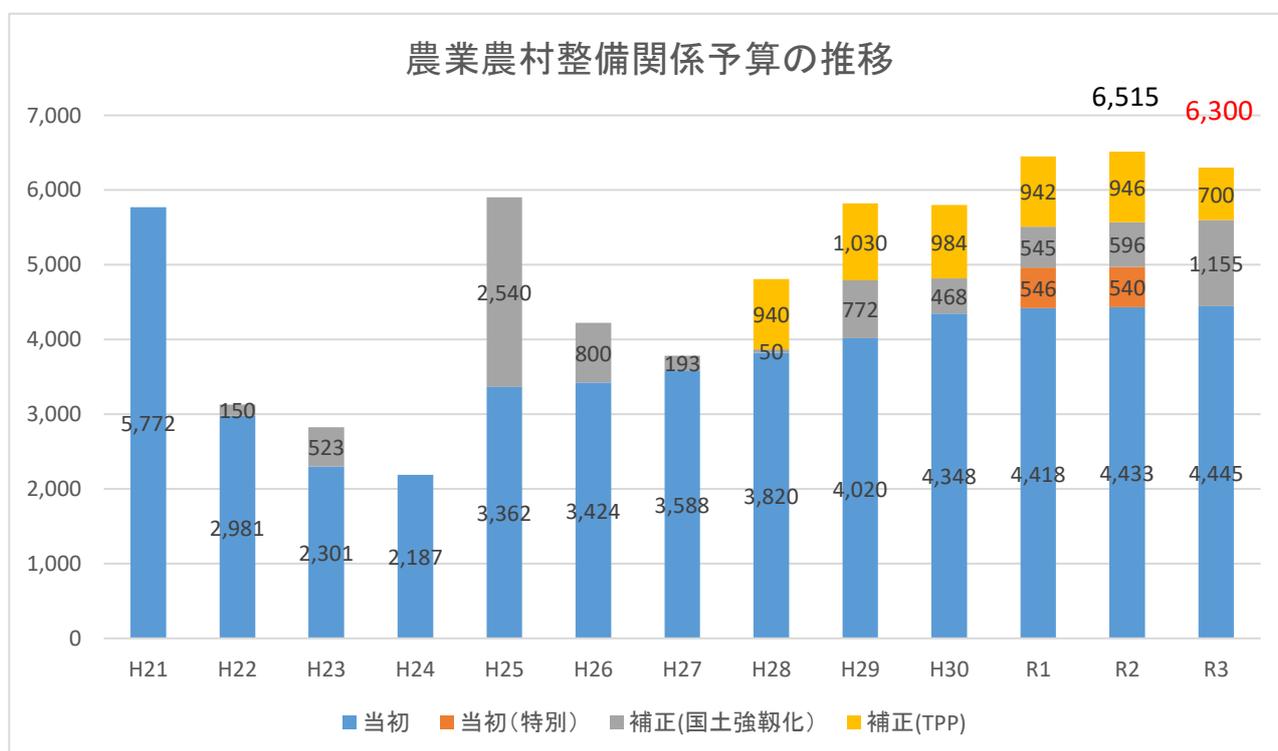


農業農村整備事業令和3年度当初予算、令和2年度3次補正が閣議決定

農業農村整備事業（公共）の令和3年度当初予算は、12月21日に閣議決定され、農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を図ると共に田園回帰や農村定住を促進するための当初予算4,445億円が確保されたところです。

なお、防災・減災、国土強靱化については、5カ年加速化対策の初年度分として1,155億円が計上され、当初予算と合わせた合計5,600億円は、平成21年度の5,772億円に迫る規模となっています。

この国土強靱化予算は今後5カ年確保できるとのことです。また、TPP対策を計画どおり推進するため必要な700億円がさらに計上され、総額6,300億円が確保されることとなります。



和歌山県では、以下の取り組みを予定しています。

和歌山県ため池サポートセンター (令和3年度開設予定)

開設の趣旨

大雨によって農業用ため池の決壊などによって起こる、周辺への被害を未然に防止するためには、日常の適正な保安全管理が必要不可欠です。

このため、ため池を管理されている方に、適正な管理方法や大雨などに対する安全性の確保に必要な対策を取っていただくため、専門の技術者による相談対応や、助言など、ため池の保安全管理に関する支援を行う「ため池サポートセンター」を開設しました。

(業務内容) ため池を管理されている方への支援

ため池の保安全管理について

1. 管理者からの相談を承ります
2. 現地での助言や指導等を行います
3. 普及啓発のため研修会を行います

ご利用は
無料です

お問い合わせ先は
和歌山県ため池サポートセンター
[TEL] [Fax] (電話番号)

ため池管理者相談窓口(予定)

TEL. (電話番号) (サポートセンター係)

毎週 火・木曜日 9:00～12:00 / 13:00～16:00

※ 祝日、休日、年末年始を除く

● ご相談の際には「ため池の名前と所在地」をお知らせください。

● 来所による相談は、あらかじめ電話で予約をお願いします。

※ ため池管理者以外の方はお住まいの市町担当窓口へご相談ください。

水土里ネット和歌山からのお知らせ

(1) 第63回和歌山県土地改良事業団体連合会の通常総会を以下のように予定しています

令和3年3月20日(土) 「ルミエール華月殿」にて開催

通常総会 15時～16時半

コロナ禍のため、今のところ、今年の通常総会と同様の対応を予定しています。

(2) 水土里情報システムを活用した事例を紹介します。

各地域で増加している空き家情報をGIS上で視覚的に管理できるシステムです。これにより、空き家活用の問い合わせ等に対して、迅速に対応できるようになります。是非とも、地域資源の活用のためご利用戴けたらと思います。

属性項目	値
整理番号	
地区名	
種別	
用途地	
土地所有者名	
土地所有権住所	
電話番号(土地所有者)	
電話番号	
電話番号(家族所有)	
土地所有権の死亡確認	
新築済無地の死亡確認	
土地の相続人	
土地相続人の住所	
家族の相続人	
家族相続人の住所	
土地面積	
建築年	
空家率	
記録簿	
写真(1/1)	51-41.pdf
写真(2/1)	
写真(3/1)	
写真(追加)	

(3) 水土里ネット和歌山では、弁護士による土地改良区法律相談、複式簿記化等に対する税理士相談についても対応しています。日頃の業務で、お困りのことがありましたら、水土里ネット和歌山事務局 総務指導課までお気軽に相談してください。(担当 総務指導課 西本)

【編集後記】

令和2年は、年度当初からコロナ禍による緊急事態宣言の発令など、感染拡大を食い止めるための対策がなされましたが、未だに先が見えない状況となっております。本県でも拡大は続いています。ウィズコロナとして、うまく付き合っていくしかないのではと思うところです。

しかし、国土強靱化対策として、農業用ため池の防災工事や農業を支える土地改良施設の更新整備や管理を続けていく必要があります。会員の皆さまにおかれましては、健康、コロナに十分注意され、日頃の業務に取り組まれますようお願いいたします。